

# 大阪大学の支援体制と支援実務 —現状と課題—

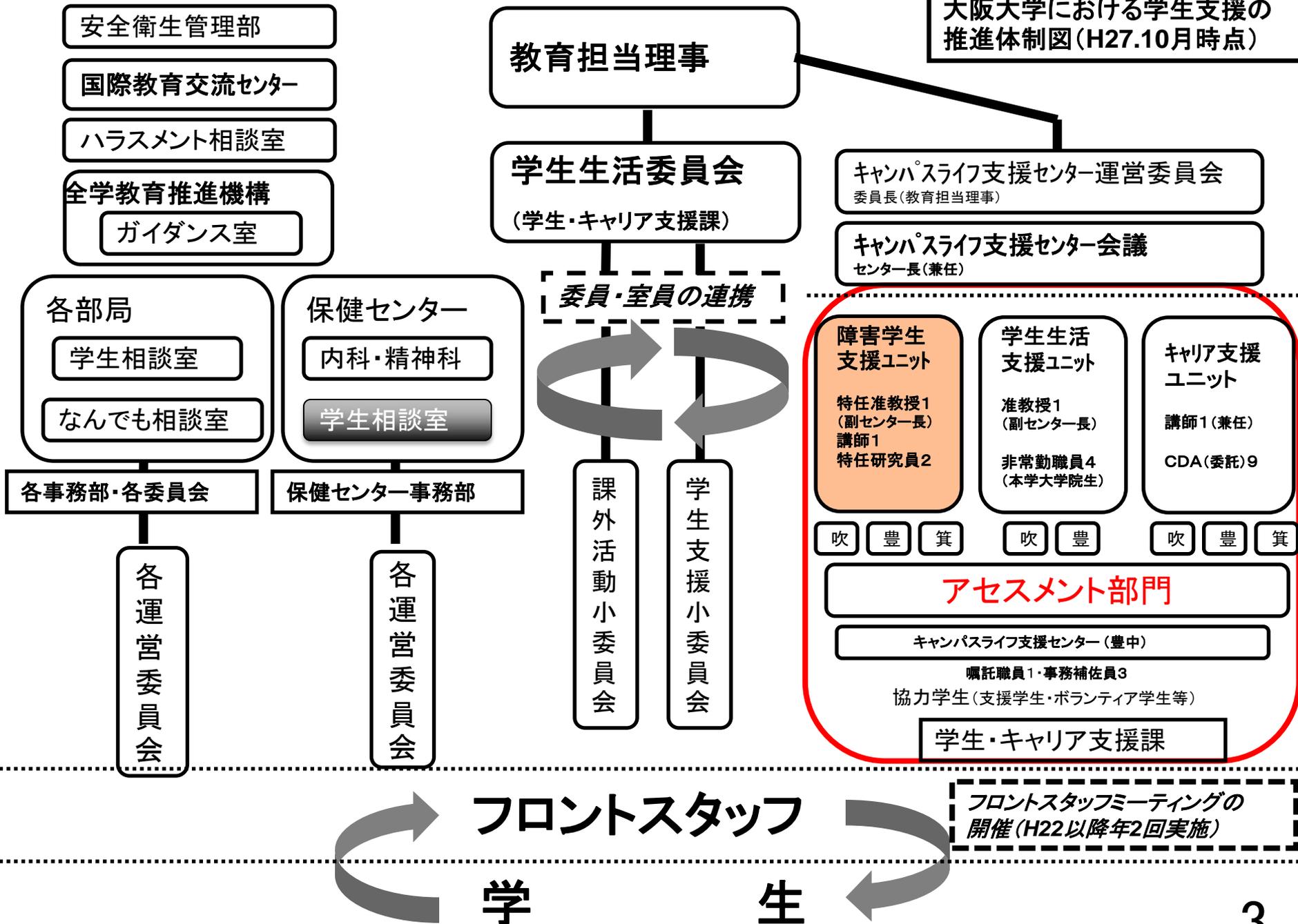
大阪大学キャンパスライフ支援センター  
望月直人・中野聡子

# 大阪大学における障がい学生支援体制

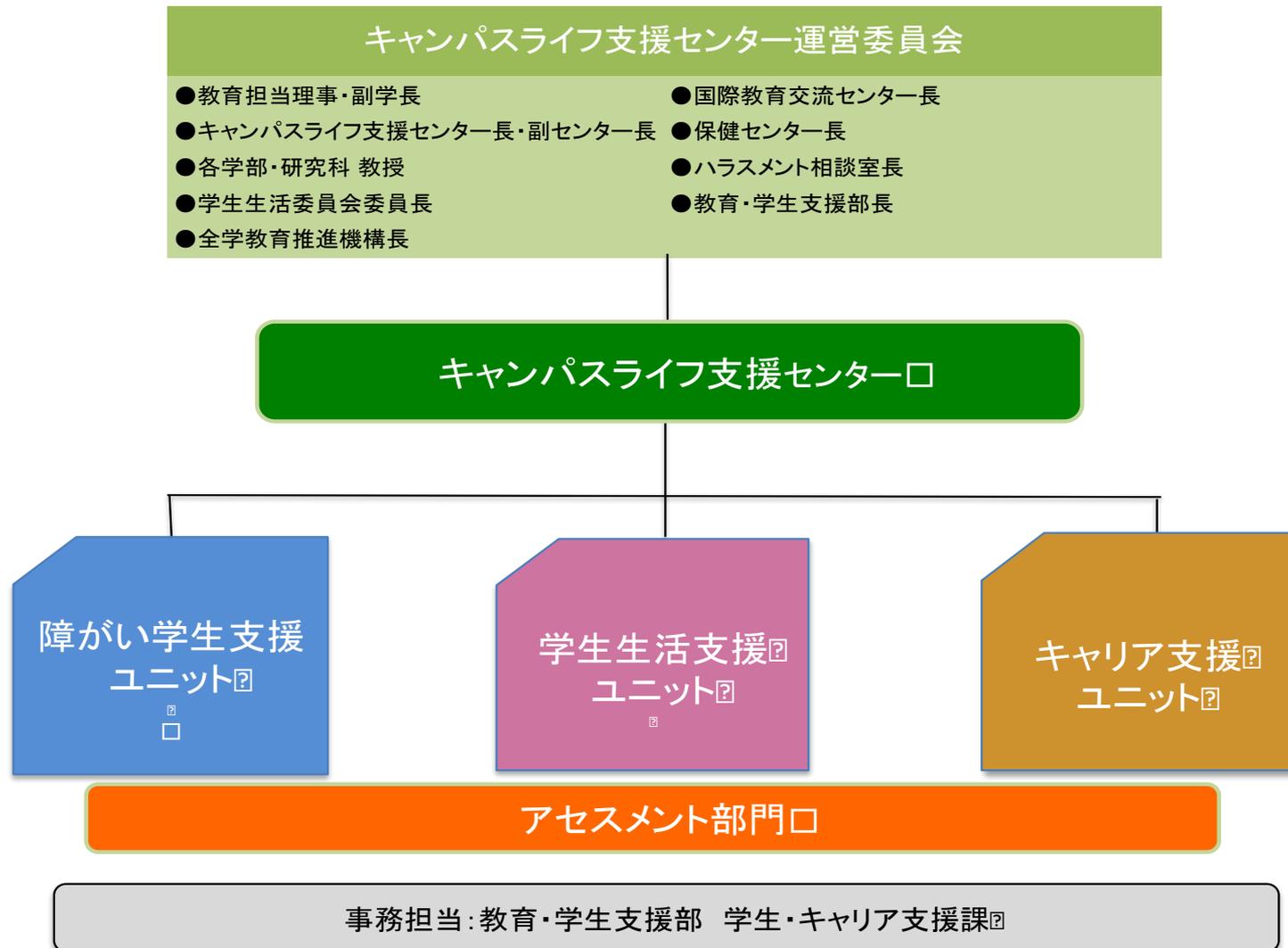
望月 直人



大阪大学における学生支援の推進体制図(H27.10月時点)



# 新しいキャンパスライフ支援センター (SCCL) の体制

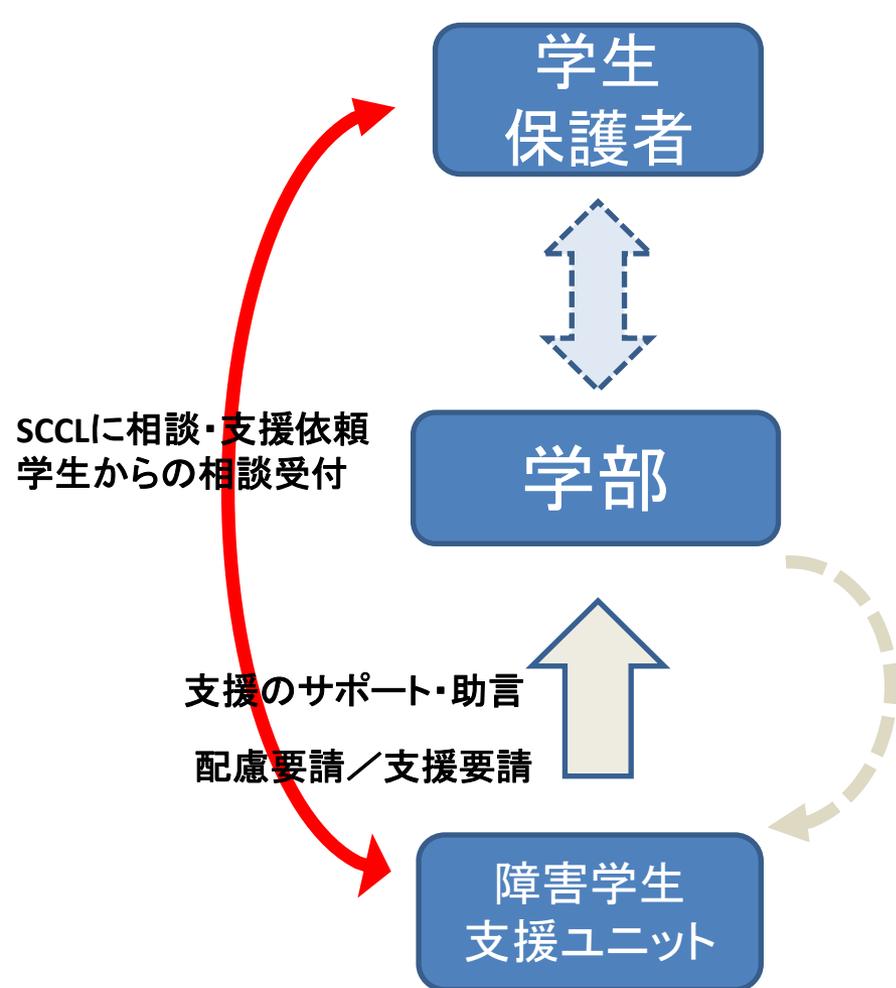


# 要支援学生・相談支援件数 経年変化

	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度
視覚障害	1	3	3	2
聴覚・言語障害	0	2	4	5
肢体不自由	2	2	3	5
病弱・虚弱	1	0	1	1
発達障害	4	14	30	32
その他 (精神障害等)	1	2	38	27
利用学生(合計)	9人	23人	78人	72人
相談支援件数	499件	1,661件	3,086件	3,505件



# 従来の障がい学生支援の流れ



支援のプロセス

入学の可否を決定するのは部局であり、シラバスや授業内容も各学部が把握されているが、情報の共有の難しさ



学生の所属学部が、学生について一番詳しく把握していることが、学生の修学支援上のメリットが大きい

本来、合理的配慮の提供の判断は、学部中心となることがより良い形

- ・発達障害・精神障害学生の増加
- ・支援ニーズの個別性・多様性
- ★学部の状況に合わせた、学生の支援・配慮内容が判断しにくい。



アセスメント機能の充実が必要

課題

課題



# 従来の支援体制での課題

## ◆ 部局との役割分担が不明確

- ・ 支援学生のシフト調整、事務手続きが煩雑
- ・ 全学的なセンターが設置されることの弊害。部局間の意識差が大きい

## ◆ 合理的配慮を決定する根拠や支援に生かす評価が不十分

- ・ 現状では支援計画（配慮内容）を考えるためのアセスメント機能が不十分（本人の話と診断書だけでは障害の機能評価や配慮の根拠が不十分）

## ◆ トラブル対応時の業務負担が大きい

- ・ 障害特性の個別性が高いために常に個別の対応が必要となる。
- ・ そのうえ、トラブル発生時には対応に通常の何倍もの手間と時間がかかり、他の業務が滞る

## ◆ 障害学生へのキャリア支援

- ・ 就職先の開拓も重要であり、相当の業務量であるが、当ユニットの人員のみで今後継続できるかどうか不安
- ・ 出張の必要性も高いが、予算が不足



# 障がい学生支援の前提

- 法改正に理念に即した障がい学生への合理的配慮の提供  
★当該学生に対して、学部が入学を許可し、学生に責任を持つ

⇒所属学部が、障がい学生と調整して合理的配慮について責任を持つべき。

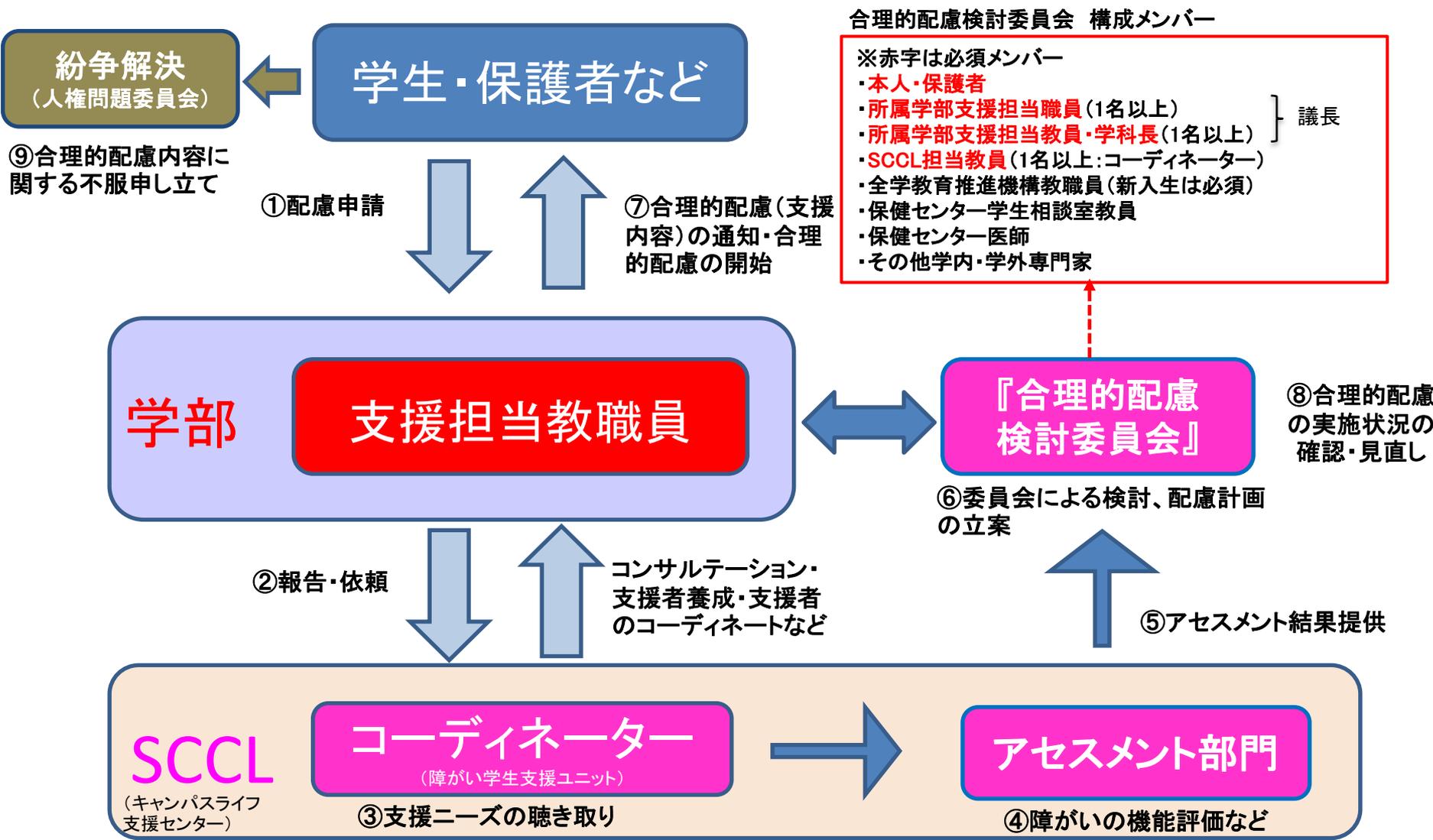
- 支援のノウハウは各部局に提供可能な段階

⇒ユニットはコンサルテーション、支援者養成を中心として、部局が主体となる支援体制を支えるシステムの確立

⇒長期的視点からは、本来の障がい学生への対応としてあるべき姿



# 障がい者差別解消法に基づく 修学支援システム



# 新システムの特徴

## ◆アセスメント部門

- ・ 知能検査や心理検査を通して、発達障がい起因する機能評価を行い、本人に適した合理的配慮を検討する
- ・ 本人の強みを見出す
- ・ 本人の自己理解へとつながる

## ◆合理的配慮検討委員会

- ・ 合理的配慮の決定プロセスに本人と所属学部を含めた合議体を設ける
- ・ 法的義務としての合理的配慮と過重な負担とのすり合わせ  
⇒落とし所を見つける場



# 現在の課題

- ◆ 障害者差別解消法の根本的な理解がされにくい大学の風土
- ◆ 差別的取り扱いの禁止
- ◆ 合理的配慮の提供
  - ・ 障害学生自身の要望を全て受け入れることを意味していないが、その捉え方に理解の差がある



# 大学における 障がい学生支援のまとめ

## ◆法律に基づく支援

・国立大学では必須。私立大学でも確実に進んでいるが、大学規模により、支援内容に格差はある。ただし、総合大学だからきめ細かな支援とは限らない。

・発達障がい学生への合理的配慮については、まだまだコンセンサスが取られていない。特に、SLDに起因する書字や読字の苦手さについて。

⇒別室受験、試験時間の延長、など。

## ◆法律に基づかない支援

・障がいを開示しない場合は、この支援が中心となるが、提供できる配慮は限られる。

・自己理解が進んでから、法律に基づく支援につながることもある。



# 大阪大学の支援実務の現状と課題

中野 聡子



# パーフェクトでないからこそチャンス！

パーフェクトな障がい学生支援は  
ほとんどありえない



- 支援の量・質を向上させる
- 利用学生のセルフマネジメント力を高める
- 合理的配慮提供の前提である「建設的対話」の基盤を作る

...ためのチャンス！



# 不満は必ずある！

利用学生のほとんどは  
【支援の量・質】【支援室や部局スタッフの対応】に  
不満がある

表明あり

表明なし

- 支援を受ける立場としての遠慮
- 潜在的ニーズに対する無認識
- 言っても変わらない, わかってもらえないという諦観  
⇒ 誘い水が必要に。「本当は〇〇で困ってるんじゃない？」

一緒に解決しよう！



# 支援の質の向上をめざして

## 【利用学生・支援室】

### 支援の質に関する 詳細な分析

- 最低限満たしてほしい支援スキルの要素は？
- 質の低下につながる要因は？  
→ 支援者の適性, 養成, フォローアップ, 周辺環境要素等
- 具体的解決策は？

## 【支援室】

### 改善に向けた 具体的行動

- 大学院支援学生確保における教員への協力要請
- 支援スキル講習カリキュラムの見直し
- 支援学生向けマニュアルの改訂
- 授業担当教員向けパンフ作成の検討



# 情報保障評価シート

	質問項目	評価
開始前		
1	授業前に配布される資料に目を通していただけますか？	
2	開始前にパートナーと連絡の方法について打ち合わせしましたか？	
タイピングについて		
3	タイプミスなく、入力できましたか？	
4	すべての指をバランスよく使って、入力できましたか？	
5	疲れにくい姿勢で、入力できましたか？	



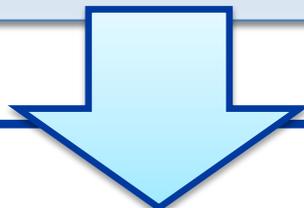
# 情報保障評価シート(つづき)

	質問項目	評価
連係スキルについて		
6	パートナーと交互に文を入力できましたか？	
7	パートナーと内容の重複をすることなく、入力できましたか？	
8	パートナーに合わせ、自然で間違いのない文章を入力できましたか？	
9	内容の脱落や間違いなく、入力できましたか？	
10	重要語・専門用語を漏らさず、入力できましたか？	
11	パートナーの入力過程をよく見ていましたか？	
12	入力文章がかぶったときにパートナーに合わせ適切な対応をとれていましたか？	
入力文について		
13	各トピックの要点は入力できましたか？	
14	不必要な要約をせず入力できましたか？	
15	途中で途切れたり意味の通らなかった文はありませんでしたか？	
16	教室内で起きている状況や雰囲気の情報もテイクできましたか？	



# セルフマネジメント力向上をめざして

日頃の支援を通して  
セルフマネジメント力の基礎を育てる



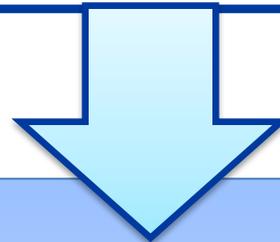
- 支援者のスキルを詳細に見極める力を身につける。
- 支援リソースの拡大, 質の向上に向けた具体的改善策を提案する。
- 限られた条件の中で、ニーズの優先順位をつける。
- いくつかのシフトパターン、支援パターンを提案する。
- 学外のリソースづくりにも関心をもつ。



# 建設的対話の基盤形成に向けて

判断材料となる情報提供が重要！

セルフマネジメント力



合理的配慮提供の協議における  
建設的対話力

